ウイルス、花粉、PM2.5……
忍び寄る大気汚染から車内を守る
空気清浄の方法論

空気が乾燥する冬はウイルスにとって好環境。さらにこの時期は、花粉やPM2.5の飛散も増えてくる。一年を通して、最悪ともいえる空気環境が"いま"なのだ。しかも狭い密閉空間の車内は、汚れた空気がこもりやすい。ここでは快適な車内空間を作りだすための方法論を示していく。

エアクリーンMISSION!

車内浄化ハウツー講座2017

まとめ：高藤昌洋／写真：前田恵介

車内は特殊な空間 欠点を知り利点を活かす

いまの時期、害悪な存在として世間を騒がせているのがインフルエンザだ。あまり知られていないかもしれないが、インフルエンザウイルスは夏でも浮遊している。それが気温が下がり、湿度も低い冬場になると活発になる。それとは逆に、人体は寒さと乾燥で抵抗力が落ちるため、ウイルスや菌に感染しやすい。

また、大気汚染として近年で最も問題視されているPM2.5のピークは、2～4月といわれている。PM2.5とは、大気中に浮遊する直径2.5㎛以下の微粒子状の物質を総称したもの。これは人の髪の毛の直径の30～40分の1とされている。人体はさまざまなフィルター機能を備えているが、たとえば鼻や喉の粘膜では4.7㎛までの粒子しかキャッチできないという。つまり、それよりもはるかに小さいPM2.5は、それらのフィルターをすり抜けて気管支や肺の奥深くに達してしまうのだ。2.5㎛以下の微粒子物質が、すべて毒性とは限らないが、そのなかで有害物質の代表格となるのが自動車の排気ガスや工場のばい煙。自動車大国、産業国である日本は、年中それらで大気が汚染されている。しかし、それに加えて中国の環境汚染によって発生したPM2.5が、偏西風によって日本に運ばれてくるのが2～4月。なお、この時期は黄砂の飛来も同様に増える傾向にある。

さらにこの時期は、一部の人を苦しめるスギ花粉も飛散。例年では2月上旬に西日本、2月中旬には関東甲信地方で花粉シーズンへと突入し、3月には日本の各地で飛散ピークを迎えている。今年は早いところでは、1月から花粉が飛び始めているようだ。

これらウイルス、PM2.5、花粉などの有害物質は、家の中よりも外気に近い状況にある車内のほうが影響を受けやすい。ドアや窓の開閉、エアコンの外気導入などにより車内に侵入した有害物質は、ドアや窓を閉め切った狭い密閉空間で滞留する。これは車内の欠点である。しかしその反面、狭い密閉空間だからこそ、小さな作用で効率よく空気を浄化しやすくもなる。環境問題が騒がれるようになり、家庭用として存在する空気浄化アイテムは、ほとんどカー用品としても用意されるようになった。いまや手軽なものから本格的なものまで、選び放題の人気市場。これらを導入するかどうかで、車内の空気環境は大きく変わる。自分のカーライフに合うものを見つけ出してほしい。